

湘南国際村アカデミア“カフェ・インテグラル”

社会のなかの科学 —研究者の責務

現代は環境やエネルギー問題など世界規模の課題から、再生医療やスマートフォンに至るまで、あらゆる人間社会の営みが「科学依存の時代」となっています。過剰依存ともいふべき時代になり、安全を担うはずの専門家への不信や危機が募っているのも事実です。

今年の「カフェ・インテグラル」では、研究者にご自身の研究と「社会の中の研究者とは」についての考察をいただき、最後に、「研究者の社会的役割」、「研究者の責務」について討論します。

参加される皆さんとも一緒に考えていきたいと思ひます。

2014年10月25日(土) 13:30~16:00

湘南国際村センター(神奈川県葉山町)1階展示室

●申込締切: 2014年10月20日(月)

- 対象: 学生・一般
- 定員: 40名(先着順 高校生以下優先枠あり)
- 参加費: 500円(ソフトドリンク・お菓子代として)
- 申込方法:

メールまたはFAXで、①お名前 ②住所 ③電話(FAXもあれば) ④メールアドレス ⑤ご所属 ⑥この催しをどこで知ったか ⑦この講演ではどのような点を特に聞いてみたいか、を書いてお申し込みください。



Lifeを語るアカデミズムの冒険

社会や人間、科学について、
お茶とお菓子を楽しまながら
リラックスして学びあう
知的カフェ

お問い合わせ:

☑(公財)かながわ国際交流財団 湘南国際村学術研究センター
(佐々木、清水)

TEL 046(855)1821 URL <http://www.kifjp.org/>

主催: 公益財団法人かながわ国際交流財団、神奈川県
協力: 公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)、神奈川県立保健福祉大学、
国立大学法人総合研究大学院大学、株式会社湘南国際村協会
後援: 葉山町

社会のなかの科学 — 研究者の責務

「その研究が何の役にたつのでしょうか？」と聞かれたとき、イギリスの科学者ファラデーは「電磁気学は生まれたばかりの赤ちゃんです。その赤ちゃんに今すぐ何の役にたつてほしいのですか」と答えたそうです。ファラデーは演示実験をともなう金曜講演会を実施しましたが、イギリスでは科学が市民権を得ていない100年以上前から市民との対話の歴史と伝統があるそうです。

では今の研究者は自らどれほど市民と対話をしているのでしょうか。学問が専門化し高度化した結果、研究者は仲間たちだけに通じる専門用語を駆使した研究成果を、わずかな専門家たちだけで共有しているのではないのでしょうか。研究論文は彼ら仲間内で披露し賞賛を受けているだけになってはいないのでしょうか。

現代は環境やエネルギー問題など世界規模の課題から、再生医療やスマートフォン

に至るまで、あらゆる人間社会の営みが「科学依存の時代」となっています。にもかかわらず、例えば自然科学の専門家が安全だと保障していた原発で、ひとたび事故が起これば想定外という言葉では済まされないほどの結果がもたらされました。

またこのような重大な“社会的問題”に対する社会科学者の責務はどのようなものなのでしょうか。

様々な難題に対していまや社会科学が自然科学と協同で取り組まなければならないことは明らかでしょう。

「カフェ・インテグラル」のセッション1と2では、研究者にご自身の研究と「社会の中の研究者とは」についての考察をいただき、最後のセッションでは、「研究者の社会的役割」、「研究者の責務」について討論します。参加される皆さんとも一緒に考えていきたいと思えます。

プログラム

13:10	受付開始 ※【バス】 逗子発12:53 汐入発12:47
13:30	開会あいさつ
13:35~14:10	【セッション1】 レクチャー (20分) + 質疑 (15分)
14:15~14:50	【セッション2】 レクチャー (20分) + 質疑 (15分)
14:50~15:05	【休憩】
15:05~15:50	【セッション3】 理解を深めるダイアログ (モデレーターと講師の意見交換、および会場との意見交換)
15:55	閉会 ※【バス】 逗子行き16:22、汐入行き16:41

カフェ・インテグラルとは？

知的機関の集積地である湘南国際村の多様な分野の研究者を講師に招き、社会の営みや人間（生命・生活）、科学、平和などについて、現状と将来像を見通すための多角的・統合的な視点を養うカフェ形式の講演会を開催しています。

国立大学法人総合研究大学院大学



近年、従来の学問分野の枠を超えた新分野開拓的、国際的な学術研究の推進や、科学の新しい流れを創造する先進的学問分野の開拓の重要性が強く要請されていますが、本学では「異分野連繫」「社会連携」「基盤機関連係」「国際連携」

の4つのレンケイと「先進性」をキーワードに、大学共同利用機関をキャンパスとし、機関が有する最先端の研究環境を活用した高度の専門教育と、全学的な教育システムの更なる拡充を図るとともに、学内外における異分野連繫の共同研究を推進し、「総合性」と「国際性」を併せ持つ研究者育成の大学院教育のロールモデルとなることを目指します。

(公財)地球環境戦略研究機関 (IGES)



IGESは、アジア太平洋地域における持続可能な開発の実現を目指し、実践的な政策研究を行う国際的研究機関として、1998年に日本政府のイニシアチブと神奈川県の実績によって設立されました。

国際機関、各国政府、地方自治体、NGO、企業などの多様な意思決定者と積極的に関わりながら研究活動を行っています。

(公財)かながわ



- 1 多文化共生の地域社会
- 2 県民等の国際活動の支援
- 3 地球規模の課題等に対応
- 4 学術・文化交流を通じた地域からの将来像

プロフィール

● 講師：^{ながやま}永山 ^{くにあき}國昭 総合研究大学院大学 理事

東京大学理学部物理学卒業後、東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、1974年に理学博士。チューリッヒ工科大学博士研究員、日本電子株式会社生体計測学研究室室長、東京大学教養学部教授を経て1997年より岡崎国立共同研究機構（現自然科学研究機構）生理学研究所教授。同研究所特任教授を経て2014年4月から総合研究大学院大学理事。専門は生物物理学、電子顕微鏡学。『生命と物質—生物物理学入門』（東京大学出版会、1997年）などの著書がある。

核磁気共鳴法（NMR）、電子顕微鏡を用いた蛋白質の構造解析・構造決定、位相差電子顕微鏡の研究開発

など、生物物理学での業績で世界的に知られる。近年では、科学技術振興機構（JST）科学コミュニケーションセンター委員として、自ら開発したスマートフォン顕微鏡Leyeを用いての科学コミュニケーション活動に取り組む。「一般市民を科学者にする」をモットーとし、科学知識の多寡よりも、「科学する」方法の普及が重要と考えている。



● 講師：^{よしだ}吉田 ^{てつろう}哲郎 地球環境戦略研究機関(IGES) 持続可能な社会のための政策統合(IPSS) 領域タスクマネージャー 主任研究員

2011年からIGES主任研究員として勤務。持続可能な開発目標（SDGs）／ポスト2015開発アジェンダを含む国際環境ガバナンスと途上国の再生可能エネルギー政策などの研究に従事。以前は国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）にて保護官・プログラム担当官として勤務し、難民認定や、難民キャンプやホスト・コミュニティにおけるエネルギー、アグロ・フォレストリー、植林、環境教育などの環境プロジェクトの実施や、UNHCRの気候変動関連の政策策定などに従事し

た。キプロス、フランス、スイス、コンゴ民主共和国、南アフリカなどで勤務。タフツ大学フレッチャースクールにて国際公法と国際開発を、インペリアル・カレッジ・ロンドンにて環境科学と政策を専攻し修士号を取得。



● 司会：^{じん}金 ^{ろんじよ}龍哲 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部長・教授

中国・東北師範大学卒業。1982年、教育部大連外国語大学赴日予備校を経て、中国政府派遣留学生として来日。1988年 広島大学大学院教育学研究科博士課程を修了後帰国、教育部中央教育科学研究所に副教授として勤務。1995年再度来日、広島大学教育学部助教授を経て2003年4月より神奈川県立保健福祉大学教授。2011年4月より現職。教育学博士。比較教育学専攻。主な著書として『結婚のない国を歩く—中国西南のモソ人の母系社会—』『東方女人国の教育—モソ人の母系社会における伝統文化の行方』『教育と人間と社会』『職業としての教師』等、他論文多数。

中国の西南地域をフィールドとして、モソ人の母系社会、少数民族の通過儀礼、地域・民族文化の教育課程化について現地調査を実施しつつ、文化多様性の保全を目指した教育の在り方を追求している。



モソ人とイモ掘りをする金先生（中央）

国際交流財団

“世界に開かれた神奈川、世界と結ぶ神奈川”を目標として、1977年に設立されました。以来、時代とともに変化する県民ニーズに的確に応えられるよう事業を展開しています。
かながわづくり
NGO等との連携・協働の促進
できる国際性豊かな人材の育成
地球規模の課題解決に向けた提案

神奈川県立保健福祉大学



神奈川県立保健福祉大学は、保健、医療及び福祉の各領域に関わる総合的な知識技術とともに豊かな人間性を兼ね備えたヒューマン・サービスを実践できる人材を育成

- し、県民の保健、医療及び福祉の向上に寄与することを目的としています。また、基本理念は、次の3点です。
1. 保健・医療・福祉の連携と総合化
 2. 生涯にわたる継続教育の重視
 3. 地域社会への貢献

湘南国際村センター 株式会社湘南国際村協会



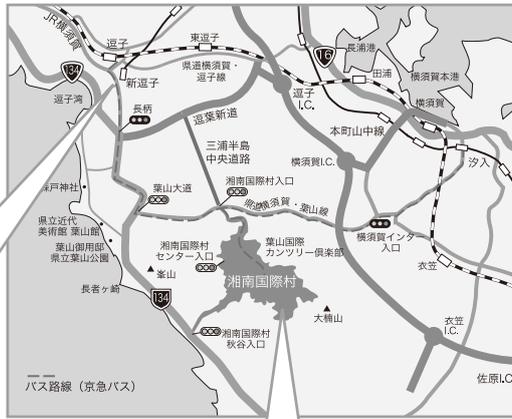
真つ青な湘南の海と空、高原のようなおいしい空気、澄んだ星空、そして、ダイナミックな富士山を一望！

神奈川県葉山町にある、湘南国際村センターは、富士山を望み、眼下には相模湾が広がる湘南の丘に立つ、宿泊施設一体型の研修施設です。国際会議、学会や、企業研修はもちろん、サークル活動、ご家族でのご利用など、幅広くご利用いただいております。
ご予約・お問合せ TEL：046-855-1800

交通案内

会場：湘南国際村
センター

住所：神奈川県三浦郡
葉山町上山口1560-39



バスをご利用の場合

● JR逗子駅・京急新逗子駅から

1番バス乗り場より「葉山大道経由～湘南国際村センター(逗16)」もしくは「三浦半島中央道路経由～湘南国際村センター(逗26)」行きに乗車し、終点でお降りください。このバスは、JR逗子駅発車後、2～3分で京急新逗子駅前の1番バス乗り場に停車します。

(所要時間約25分、運賃350円)

※講演開始にちょうどよいバスは12:53発です。

● 京急汐入駅から

2番バス乗り場より「湘南国際村センター(汐16)」行きに乗車し、終点でお降りください。(所要時間約30分、運賃380円)

※講演開始にちょうどよいバスは12:47発です。

※バスの本数が1時間に1本ととても少ないためご注意ください。バスの時刻表は下記の交通案内HPをご参照ください。

タクシーをご利用の場合

JR逗子駅前のタクシー乗り場から会場まで約20分、料金約2,900円。

交通案内HP (時刻表・駐車場含む)

<http://www.shonan-village.co.jp/access.html>

● お申し込み方法 ● 申込締切：2014年10月20日(月)

FAX

下記申込書に記入のうえファックスでお送りください。

046-858-1210

メール

下記申込書の内容をお書きください。

※メールに関するご注意(下欄参照)

academia@kifjp.org

- メールに関するご注意：こちらからの返信メールが迷惑メールフォルダに入るケースが発生しております。お手数ですが、「迷惑メールフォルダ内」の確認または「academia@kifjp.org」の指定受信設定をお願いします。
- 先着順にて受付します。※ただし高校生以下は優先枠あり
- お申込み多数の場合、**申込受付期間中でも応募を締め切らせていただく場合があります。**あらかじめご了承ください。
- お申込み後のキャンセルはお早めにご連絡ください。
- 参加費は当日受付にて現金でお支払いください。

お問い合わせ先：湘南国際村学術研究センター TEL 046-855-1821

参加申込書 “カフェ・インテグラル” 「社会のなかの科学—研究者の責務」

ふりがな			
氏名			
お住まい (市区町村まで)	〒		
電話		FAX	
Eメール			
ご所属	高校生	大学生	主婦 会社員 NPO/NGO その他 []

本講演で特にどのような点をお聞きになりたいですか？ (100字程度でお書きください)：

この催しを知ったきっかけ [ちらしの入手先など]：